



2007年12月18日

シャープ「21世紀型コンビナート」の敷地に新工場建設

長瀬産業株式会社
ナガセケムテックス株式会社

長瀬産業株式会社(東京都中央区:代表取締役社長 長瀬洋、以下当社)は、その子会社であるナガセケムテックス株式会社(大阪市西区:代表取締役社長 関子恭一、以下ナガセケムテックス)、およびセイケムアジア株式会社(大阪府東大阪市:代表取締役社長 新述孝夫、以下セイケムアジア)と共同で、シャープ株式会社(大阪市阿倍野区 代表取締役社長 片山幹雄、以下シャープ)が大阪府堺市に建設を予定している「21世紀型コンビナート」内に薬液の製造・供給・リサイクルを行う新工場を設立することを決定いたしました。シャープ「21世紀型コンビナート」には複数のメーカーが部材などを生産する工場を立ち上げる計画になっていますが、当社もその1社として、液晶パネル製造に使われる薬液を管理・供給することとなります。

ナガセグループは、当工場においては、現像液、剥離剤、エッチャント、洗浄剤などを供給できる体制とし、ケミカルマネジメント装置やナガセケムテックスが保有する薬液リサイクル技術を導入することで、現像液、剥離剤等をリサイクルします。これにより薬液や使用する原料を大幅に削減することが可能となり、循環型工場として環境面で大いに貢献すると考えております。

当社およびナガセケムテックスは、これまで国内外の多くの液晶パネルメーカーに薬液管理システムや剥離剤・現像液を中心とする薬液を供給してまいりました。かねてより大型液晶工場の敷地内に薬液工場を建て、薬液の供給とリサイクルを行うというオンサイトファブ(Onsite Fabrication)構想を計画して、それに必要な技術の蓄積を行ってきました。今回、長年に亘り蓄積してきたナガセグループの技術を集積し、この構想を実現することにより、物流の合理化と薬液消費量の低減を達成できると考えております。

また、隣接のリサイクル設備の中にはTMAH(テトラメチルアンモニウムヒドロキシド)のリサイクル設備を、セイケムアジアと共同で設置する予定であります。そのリサイクル設備には、セイケム社の長年に亘る研究開発の成果であるメビウステクノロジーと命名した精製技術を採用しております。セイケムグループは米国、欧州、アジアにグローバルに展開する高純度化学品メーカーであり、TMAHの製造販売では世界トップ企業の一つであります。

セイケムアジア/SACHEM Inc. について

セイケムアジアは、SACHEM Inc. (www.sacheminc.com/ テキサス, USA、1950年設立)の100%子会社で、1998年最初の拠点を日本(大阪市、東大阪市)に設立、現在は韓国(ソウル)、中国(上海、無錫)にも拠点を拡大。セイケムヨーロッパ(ザルトボメル、オランダ)と併せ、SACHEMグループは様々な高純度化学品を提供している。主要品目は、四級アンモニウム化合物、スターチ用カチオナイザー、分離精製カラム等。

ナガセケムテックスについて

ナガセケムテックス株式会社(www.nagasechemtex.co.jp)は、エポキシコンパウンドや半導体・液晶向け薬液などを製造するケミカルメーカーで、ナガセグループの製造機能の中核を担っています。いままで液晶業界において薬液ノウハウ、水系剥離技術、リサイクル技術を有しており、今回の工場内では製造技術面で中心的機能を担い、万全の供給体制を築きます。

長瀬産業について

長瀬産業株式会社(www.nagase.co.jp)は、長年にわたって培ってきた化成品事業と合成樹脂事業を核として、「エレクトロニクス」、「ライフサイエンス」、「自動車関連」、「海外事業」の4つの戦略分野で、お客様にトレーディング機能、マーケティング機能、研究開発機能、製造・加工機能を提供しております。現在推進中の中期経営計画「WIT2008」では、重点戦略分野の一つであるエレクトロニクス分野での投資を推進しており、このオンサイト工場での薬液供給ビジネスを契機に液晶関連ビジネスの事業拡大を目指してまいります。

〈 お問合せ先 〉

長瀬産業(株)

オンサイトプロジェクト推進室 森田

03-3665-3306